

# ドミニオン オブ クライスト教会 2025年末～

主にあって、愛する家族の皆様へ

尊い主の御名を心から賛美いたします。

いつも主のまなざしが、私たち一人ひとりの上に豊かに注がれていることを覚え、深い感謝に満たされています。

この一年も、主は変わらぬ恵みと真実をもって私たちを導き、それぞれの歩みの中で御業を現してくださいました。喜びの時も試練の中でも、主は確かに共におられ、私たちを支え続けてくださっています。

ドミニオン・オブ・クライスト教会を通して働かれる神様の御手は、今も力強く動いています。心一つにして主を見上げ、与えられた使命に忠実に歩んで行きたいと願います。

皆様、いかがお過ごしでしょうか。

---

## < 創立記念日 >

2025年度の創立記念日には、カルロス・ロムロ・ハイスクールでの働きを通して教会につながった若者たちが参加してくれました。

これまで地道に続けてきた歩みの実が、こうして目に見える形で現されていることを、私たちは大きな励ましとして受け止めています。



その中の一人が、「生まれて初めて、自分が受け入れられていると感じました」と証ししてくれました。

家庭環境にさまざまな課題を抱える人が多い今の時代にあって、誰にも打ち明けることのできなかつた心の内を、安心して語ることのできる場所がここにあることを、心から神様に感謝しました。

この日のために特別メッセージを携えて来てくださった、フィリピンを代表するクリスチャンバンド「グローリーフォール」のギタリストの方が、

「ドミニオンは一つの大きな家族ですね。これはどこにでもあるものではありません」

と語ってくださいました。

その言葉を聞いたとき、思わず涙があふれました。どんなほめ言葉よりも胸に響く言葉でした。神様、本当にありがとうございます。

---

## <トラクト配布>

第五日曜日のランチ後、ドミニオン恒例のトラクト配布に、みんなで出かけました。  
今回は教会裏のご近所を中心に歩きました。

11月とは思えない猛暑の中、汗だくになりながらの活動でしたが、初めて参加した若者たちも「とても良い経験でした」と話してくれました。

ドミニオン特製のピンバッチとトラクト、そして各自が持ち寄ったスナックを添えてお配りしました。

私たちは、ただ配るだけでなく、「一人ひとりに心を向けて声をかける」ことを大切にしています。

一見、小さく無駄に思えることでも、こつこつと積み重ねていくとき、それが確かな一歩になると信じています。これからもその歩みを続けていきたいと願っています。

「良い知らせを伝える者の足は山々の上にあって、なんと美しいことよ。平和を告げ知らせ、幸いな良い知らせを伝え、救いを告げ知らせ、『あなたの神が王となる。』とシオンに言う者の足は。」

## イザヤ書 52：7

---

## <リーダーシップセミナー>

カルロス・ロムロ・ハイスクールの教師向けセミナーに、ジュン牧師が「スピリチュアルな成長」をテーマに講師として招かれました。



火曜日午後のメンタルケアルーム「グロウ・トゥ・シャイン」を担当している私たち3人も参加しました。

ヨシュアがモーセという指導者のもとで成長していった姿を、教師と生徒の関係に重ねながら学びました。公立学校では宗教色を前面に出すことはできませんが、御言葉を直接引用して語る事ができたのは、本当に感謝な体験でした。

セミナー後には、新卒の先生方が残って悩みを打ち明けてくださり、とても有意義な時となりました。

---

## <クリスマス・ノチェブエナ>



ドミニオン年末恒例のクリスマスイブ「ノチェブエナ」が行われました。

田舎へ帰省したため参加できない兄妹もいましたが、マニラに残っているメンバーは、それぞれたくさんのごちそうを持参してくれました。礼拝後の食事はもちろん、2歳から76歳まで楽しめるチーム対抗ゲームも大いに盛り上がりました。

キリストを中心に、ドミニオンという大きな霊の家族が形づくられていることを改めて感じるひとときとなりました。

身寄りのない婦人も参加し、教会が彼女の心の支えとなっていることを実感しました。数年前まで、クリスマスを迎えるたびに深い悲しみに沈み、教会行事にも参加できなかった彼女ですが、今回は教会の家族と共にノチェブエナを過ごすことができました。



過去の悲しみを乗り越え、キリストにある真の解放と癒しを体験している姿を見て、神様の大きな愛を改めて感じました。

神の愛は、どんな恐れや過去の傷よりも強く、私たちが平安で満たしてくださいます。

---

## <老人ホームへの歳末助け合い>

カルロス・ロムロ・ハイスクールでは、授業の一環として、地域の老人ホームへの歳末助け合いが行われました。

ホームからの要望に応じて、さまざまなサイズの介護用おむつを準備し、学校から届けました。

当日は、生徒たちが直接訪問し、ホームの皆さんとダンスを楽しんだり、お茶会を開いたり、心温まる交流のひとときを過ごしたそうです。

このような関わりを通して、これからも地域に仕え、誰かの力となる働きを続けていけたらと願っています。



## <ケソン市教育特別貢献賞>



カルロス・ロムロ・ハイスクールでの地道な活動が認められ、2025年度ケソン市の教育分野における特別貢献賞を受賞しました。

教会としてこのように評価されることは夢にも思わなかったことであり、小さな働きを諦めずに続けていくことの大切さを改めて学ぶ機会となりました。

忍耐をもって歩み続けることができたことを神様に感謝し、これからも神様の導きを求めながら歩んでいきたいと願っています。

---

## <バイブルリフレクション>

日曜日のランチ後には、多くの兄妹がバイブルスタディに参加しています。

ドミニオンの聖書通読表に基づき、一週間の中で最も心に響いた御言葉を分かち合うこの時間は、もともと毎日聖書を読む習慣を身につけるために始まりました。

今では、お菓子もあふれる中で、堅苦しくない雰囲気の中で、楽しく御言葉を学び合う時間へと発展しています。主から与えられる喜びを、共に分かち合う大切なひとときとなっています。



そして彼らに言った、「あなたがたは去って、肥えたものを食べ、甘いものを飲みなさい。その備えのないものには分けてやりなさい。この日はわれわれの主の聖なる日です。憂えてはならない。主を喜ぶことはあなたがたの力です」。

**ネヘミア記 8：10**

---

## <グロウ・トゥ・シャイン>

隔週火曜日に行っている、カルロス・ロムロ・ハイスクールでの活動です。

2026年度最初の「グロウ・トゥ・シャイン」には、42名の生徒が参加してくれました。

この日のテーマは「Entangle（もつれ）」でした。

チームに分かれて手をつないで輪を作り、糸が絡まったような状態を人の輪で再現します。そしてチームリーダーが、絡まった輪をほどきながら、最初のきれいな輪に戻していくゲームです。

このゲームの大切なポイントは、\*\*「握った手を決して離さないこと」\*\*です。それは、お互いを支え合う「絆」を象徴しています。

そんな中、交際していた生徒二人が人知れず心中してしまったという、ショッキングなニュースがありました。

思いつめていたことを、家族も友人も誰も知りませんでした。

人生を歩む中で、「もつれ」は誰にでも起こり得るものです。

その原因は人それぞれですが、真の救い主であるキリストを知ることによって、この世のさまざまな痛みや心のもつれから解放され、キリストにある命と自由を体験してほしいと心から願っています。



3月に入ってからは、卒業を間近に控えた最後のクラスが行われ、50名の生徒が参加してくれました。

彼らにとって最後のクラスということもあり、英語・タガログ語・日本語で「大いなる主の愛」を大合唱しました。

進学先がまだ決まっていない生徒、これから入試を迎える生徒、また留年する生徒など、それぞれ状況はさまざまですが、3月末の卒業式の後には、それぞれの道へと進んでいきます。

このクラスで学んだこと、体験したことが、これからの人生の中で少しでも支えとなることを祈っています。

昨年度から参加してくれていた生徒たちとの別れを惜しみ、アン姉はまるで母親のような気持ちになり、子どもたちの巣立ちに涙する最終クラスとなりました。

私たちにとっても、本当にかげがえのない経験となりました。

神様のなさることには無駄なことが一つもなく、すべてが感謝と愛に満ちていることを改めて覚えています。

神様、本当にありがとうございます。

いっさいの重荷とまつわりつく罪とを捨てて、私たちの前に置かれている競走を忍耐をもって走り続けようではありませんか。信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。



ヘブル人への手紙 12：1－2

## <ムービーサンデー>

待ちに待ったムービーサンデーの始まりです！

日曜日のランチの後、教会堂はあっという間に小さなシネマに早変わり。フロアいっぱいに絨毯や敷物を敷き詰め、クッションや毛布も用意して、まるで家でくつろぎながら映画を楽しむような、リラックスした空間を作りました。

また、チケットに見立てた招待状を事前に作成し、家族や学校の友人たちにも配布。お菓子やジュース、ココアもたっぷり準備して、教会のみんながワクワクしながらこの日を迎えました。

この日に上映した映画は、ティーンたちが参加するサマーキャンプを舞台にしたミュージカル『A Week Away (ウィーク・アウェイ)』。

ほろ苦い経験や孤独の中にいる若者たちが、神の圧倒的な愛に出会い、少しずつ変えられていく姿が描かれています。



教会のメンバーも楽しいひとときを過ごすことができましたが、特に初めて来てくれた方々が「教会って楽しいんだな」と感じ、また足を運んでくれることを心から祈っています。

---

## <感謝と祈りの課題>

### 【感謝】

- ・カルロス・ロムロ・ハイスクールでの働きが守られ、多くの生徒たちとの出会いが与えられていること。
- ・教会の歩みが地域の中で用いられ、教育分野における特別貢献賞という形で励ましをいただいたこと。
- ・ドミニオン教会が、年齢や背景を越えて支え合う「霊の家族」として守られていること。

### 【祈りの課題】

- ・学校で出会う生徒たち一人ひとりが、人生の中でキリストの愛と希望を知ることができますように。
  - ・「グロウ・トゥ・シャイン」の働きがこれからも守られ、多くの若者たちの心に希望の光が届きますように。
  - ・ドミニオン教会が、地域の人々にとって安心して心を開くことのできる場所として、これからも用いられていきますように。
-

こうして振り返ると、日々の働きの中で神様が確かに導き、支えてくださっていることを改めて感じます。小さな一歩の積み重ねの中で、多くの出会いと恵みが与えられていることを心から感謝しています。

これからも、神様が与えてくださる一つ一つの機会を大切にしながら、主の愛を分かち合う歩みを続けていきたいと願っています。

いつもお祈りと支えをもって共に歩んでくださる皆様に、心より感謝いたします。  
主イエス・キリストの恵みと平安が、皆様お一人おひとりの上に豊かにありますように。

“神様と共に歩むドミニオン”

ジュン&広子